

事業コード	0040301	政策コード	03	政策名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
事業名	日本スポーツマスターズ2016秋田大会開催事業	施策コード	04	施策名	「スポーツ立県あきた」の推進
		指標コード	03	施策目標(指標)名	スポーツを活用した地域の活性化
部局名	観光文化スポー	課室名	スポーツ振興課	班名	プロジェクト班
				(tel)	1243
				担当課長名	飯坂尚登
				担当者名	伊藤栄悦

評価対象事業の内容

<p>1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 「日本スポーツマスターズ2016秋田大会」が県内6市2町13競技に於いて開催され、全国から8,000人の監督・選手と、日韓スポーツ交流として韓国選手団約200人が参加してスポーツを通じた交流を深め交流人口の拡大を図ると共に、本県のシニア世代のスポーツ活動意欲を喚起し、県全体の活性化につなげる。また、大会の開催に合わせ、本県の伝統文化や豊かな自然が育んだ食文化など魅力を情報提供しスポーツを通じた地域の活性化を図ろうとするものである。</p> <p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点 全国から約8,000人の交流人口の拡大と、スポーツを通じた秋田の魅力の情報発信と再確認、賑わいの創出を醸成することができた。また、競技を通じて親交のあった韓国のチームとの継続した交流の推進とあわせ、本県シニア世代のスポーツへの意識高揚と活動意欲が喚起された。競技運営面において競技役員世代が選手として出場するため、競技役員、補助役員の確保や競技運営面での財政的な支援が期待される。</p> <p>2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの) 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期: H28年 11月) 満足度の把握方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 (具体的に) 満足度の状況 運営ノウハウの活用や蓄積ができ、交流人口の拡大で地域の活性化が図られた。また、シニア世代のスポーツ参加の活性化をもたらした。</p> <p>3. 事業目的(どういう状態にしたかったのか) 大会開催により選手・監督や観客等の多くの来県を図り、秋田の魅力を売り込むとともに、スポーツによる交流人口の拡大から地域を活性化する。</p> <p>4. 目的達成のための方法 事業の実施主体 県、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人秋田県体育協会、開催地市町 事業の対象者・団体 県民、大会参加者、役員等、観客 達成のための手段 先催県(石川県)及び日本体育協会からの情報収集。市町及び競技団体との説明会の開催と情報交換。県民への大会の周知を促進し、大会開催までの歓迎ムードの醸成を図る。また、県民挙げてのおもてなし事業を開催し秋田県の魅力をアピールする。</p>	<p>5. 前回評価における指摘事項等</p> <p>指摘事項</p> <p>指摘事項への対応</p> <p>6. 事業の内容 事業概要及び推進状況 シニア世代の総合スポーツ大会を開催することにより、大会の準備並びに運営を適切に進め大会を成功させる。また、スポーツを通じた交流人口の拡大と、韓国との国際交流の促進、県外の参加者に秋田の魅力を売り込むと共に、地域の活性化を図る。</p>																																													
	事業年度 平成28年度 ~ 平成28年度																																													
<p align="right">事業費等 単位(千円)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">内 訳</th> <th>当初計画事業費</th> <th>最終事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">日本スポーツマスターズ2016秋田大会開催に係る負担金</td> <td align="right">30,976</td> <td align="right">22,878</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計</td> <td align="right">30,976</td> <td align="right">22,878</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">財源内訳</td> <td>国庫補助金</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>県 債</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td align="right">2,076</td> <td align="right">1,945</td> </tr> <tr> <td>一 般 財 源</td> <td align="right">28,900</td> <td align="right">20,934</td> </tr> </tbody> </table>		内 訳		当初計画事業費	最終事業費	日本スポーツマスターズ2016秋田大会開催に係る負担金		30,976	22,878																					事業費計		30,976	22,878	財源内訳	国庫補助金			県 債			そ の 他	2,076	1,945	一 般 財 源	28,900	20,934
内 訳		当初計画事業費	最終事業費																																											
日本スポーツマスターズ2016秋田大会開催に係る負担金		30,976	22,878																																											
事業費計		30,976	22,878																																											
財源内訳	国庫補助金																																													
	県 債																																													
	そ の 他	2,076	1,945																																											
	一 般 財 源	28,900	20,934																																											

当初計画及び最終の事業費比較 最終事業費 / 当初計画事業費 =(0.74)

7. 事業の効果及び課題の改善状況
 大会開催に係わり、約8000人の参加者が見込まれ6市2町13競技において競技を開催し、大会参加者及び関係者の宿泊や飲食施設等の利用があり、大会開催費用以外にも波及効果があった。今後、各競技、日韓スポーツ交流を通じ継続したスポーツ交流に繋がる可能性がある。また、シニア世代のスポーツ参加の活性化が見られた。

8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

指標名										指標の種類
指標式										成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当										
指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体		
目標a										
実績b										
a/b										
データ等の出典										
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月										

指標名										指標の種類
指標式										成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当										
指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体		
目標a										
実績b										
a/b										
データ等の出典										
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月										

指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法

指標を設定することが出来なかった理由
 単年度の開催であること。参加選手・監督数もほぼ確定しており、参加者年齢からしても応援として同行する観客も、例年ほばいない状態であり、本大会に限った数値上昇が見込めないため。

成果(見込まれる効果)
 大会開催に伴う選手・監督や観客等の来県者による経済効果。経済連関表による経済波及効果簡易計算ツールによれば約1.2億の波及効果が見込まれる。

所管課の評価				評価結果	
有効性の観点	住民満足度の状況	a	b	c	A B C
	【b又はcの場合の分析】				
	事業の効果	適用の可否 可 不可			
	a 達成率100%以上	b 達成率80%以上100%未満	c 達成率80%未満		
	【b又はcの場合の理由】 大会開催に伴う選手・監督や観客の来県者による経済効果は、参加選手・監督数がほぼ確定しており十分な経済効果が見られた。				
効率性の観点	事業の経済性の妥当性	適用の可否 可 不可			評価結果 A 1.0~ B 0.8~ 1.0 C ~0.8
	a 1.0~	b 0.8~1.0	c ~0.8		
	$\left[\frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right] / \left[\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right] =$ 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】				
	地域の賑わいの創出等を、費用対効果で図ることは困難である。大会開催にあたり参加選手、関係者の宿泊、交通費、飲食施設等の利用があった。また開催市町ではおもてなし事業を開催しスポーツを通じた地域の活性化が図られた。				
総合評価	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)				
	大会開催にあたり運営費、並びに事業費は適正であり、交流人口の拡大と、スポーツを通じた地域の活性化は図られた。また、継続したスポーツ交流やシニア世代のスポーツ参加の活性化も図られ今後になかすことが出来た。				
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)					
政策評価委員会意見					

終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

(1)各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点) B:有効性はある (1~3点) C:有効性は低い (0点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が低い	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1		1次 2次	
		b a、c以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	3	B		
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	1		A:効率性は高い (2点) B:効率性はある (1点) C:効率性は低い (0点)	
		b a、c以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	1	B	

(注)事業経済性の算定式

$$\left(\text{事業終了後の効果} / \text{最終事業費} \right) / \left(\text{当初計画時の効果} / \text{当初計画時事業費} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2)総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		